

ワンヘルスの課題に対応する実践拠点として、全国初の「ワンヘルスセンター」が、福岡県により本市の保健医療経営大学敷地に整備されます。

その中核施設として太宰府市から移転することになった、福岡県保健環境研究所に行つて話を伺ってきました。



福岡県保健環境研究所



福岡県保健環境研究所



ワンヘルス推進ポータルサイト

保健環境研究所の取り組み

ウイルスの検査・解析



インフルエンザなど、ウイルスが原因となる感染症の予防対策に必要な検査や研究に取り組んでいます。近年は新型コロナウイルスの遺伝子解析も行っています。

水質改善技術の開発



河川や海、湖の水に含まれる化学物質の分析など、水環境を守るための研究をしています。電極を設置するだけで、水質・底質を改善する装置の開発にも取り組んでいます。

生物多様性の保全



生物多様性の保全のために、生態系や野生動植物の調査・研究をしています。環境DNAを用いた手法の開発や新たな外来種を増やさないための啓発活動も行っています。

人獣共通感染症対策として 愛玩動物の検査



感染症の中には、人と動物に共通する「人獣共通感染症」があります。動物病院と協力して、最も身近な愛玩動物である犬や猫の血清やふん便を使って、人獣共通感染症の病原体の保有状況調査を行っています。

大気汚染シミュレーション 技術の開発



シミュレーション技術を活用して、PM2.5などによる大気汚染の予測や要因の解明をしています。高濃度が予測された場合には、県公式LINEで情報の配信をしています。

リサイクル技術開発への協力



廃棄物を有効利用するための技術開発を民間企業とともに行っています。最近では、フルーツの搾りかすなどから天然ヒトセラミド(肌の保湿成分)をつくる技術開発に協力しました。

楽しく学べる環境づくり



まるごとみやま市民まつりに参加し、カラフル人工イクラづくりの実験を行いました。県民の皆さまが楽しんで学ぶことができる環境づくりに取り組んでいます。

食品などの安全性検査



県民の皆さまが健康的な生活を送るため、食品中の残留農薬やアレルゲン原因物質の検査、食中毒の原因究明を行っています。また、医薬品の成分検査なども行っています。

福岡県保健環境研究所の田中副所長にインタビュー



福岡県保健環境研究所
副所長 田中義人さん

保健環境研究所ってどんな施設ですか？

全国の都道府県や指定都市などに設置されている「地方衛生(環境)研究所」に位置付けられる、福岡県の出先機関です。

現在は、太宰府市の総合体育館の近くにあります。

どんな研究をしているのですか？

県民の皆さまの健康と快適な環境を守るための調査・研究をしています。

具体的には、食中毒や感染症などの原因究明、大気や水の環境監視のほか、野生動物や外来種の調

どのくらいの人が働いているのですか？

博士号を取得した人やマスター(大学院で修士課程を修了した人)などの研究職員と事務職員、合計約70人が働いています。

周辺環境に影響はありませんか？

民間企業と協力して、治療薬の開発にも取り組みました。

令和9年度にみやま市に移転予定ですが、ワンヘルスセンターではどのようなことが行われるのですか？

ドクター(博士号を取得した人)やマスター(大学院で修士課程を修了した人)などの研究職員と事務職員、合計約70人が働いています。

私たちは生活する環境には、さまざまな化学物質や細菌、ウイルスが存在していますが、中には、人の健康や環境に悪い影響を及ぼすものもあります。保健環境研究所では、県民の皆さまの健康や環境を守るために、試験や調査を行っています。

その試験では、微量ながら化学

物質やウイルスなどを取り扱うことがありますが、適切な排気・排水処理やセキュリティ対策などを講じた設備を整備し、周辺環境に配慮した万全の対策を取ることとしています。

特に農漁業が盛んなみやま市では、定期的に周辺の水質検査を行いチェックしていく予定です。

他に類を見ない、人、動物、環境の各分野に関する一体的な調査・研究ができる特徴を生かして、医療機関や大学、民間企業と協力して、ワンヘルスに関する先進的な調査・研究に取り組めます。また、県民の皆さまに開かれた研究所として、ワンヘルスについて学び、体験できる施設となるよう検討しています。

新しい保健環境研究所は
令和9年度に移転予定です

